
とある男の悩み事

棒人間

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある男の悩み事

【Nコード】

N9682Y

【作者名】

棒人間

【あらすじ】

『僕』の悩み事の話です。

悩みなんて忘れるかあるときずっと解決しますよね。

(前書き)

地の文練習にセリフほぼ無しと勢いで書いたので特に後半が酷いですが。

良かったら、どうぞ。

あとガールズラブや性転換ものが嫌いな方は気を付けてください。

私、今とても悩んでいる事があります。
最早悩み事と言って良いものかもわかりませんが。

私の目の前にはとても可愛い女の子が立っています。
歳は17程に見えます。

私は百合の花、所謂『レズ』と言った性癖はございません。

ですが私は一枚の硝子の隔たりの先に立っている女の子から目を離す事が出来ずにいます。

隔たりの境に触れると目の前の女の子も触れて来ます。
パツと手を離すと同じ様に手を離します。
私が自分の顔を撫でるとその子も顔をなでます。

…そろそろ分かったかと思えます。
私の目の前にある隔たりは鏡。
ですが私はナルシストの語源になった神話よろしくと言うわけでは
ないのです。

昨夜隔たり、もとい鏡を覗いた時はつきりと私は生物学的分類では
しっかり雄に分類される顔つき、体つきでした。

ですが、どうでしょう。

朝、顔を洗いに下に降り洗面台に向かってみるとあら不思議。
私は女の子になっていたのです。

…じゅん。

この話し方辛い。

そういうわけで僕の悩みって言うのは女体化してしまっている事。

しょうがないから女物の下着や服を買いに外に。

さっきからちらちらと視線が。

多分胸か…。

自分で言うのもなんだけど中々どーしてだわこの大きさ…。

女の子って辛いね。

かなり恥ずかしかったがなんとか得物を手に入れ無事帰宅。
視線は無視する事にした。

うーん、少なくとも下着は着けなきゃダメだよな？

…上着を全て脱ぎ思ったのだがこれは本当に凶悪だと思う。
大きいけれど形も良い。

何が悲しくて自分の胸揉んでるんだろう。

とりあえず着替え終えてこれからどうするかを考える。

まずは帰って来る妹に説明が必要だろう。
それからバイトも変えなくては。
大変になってきた。

そこに都合良く妹が帰ってきた。

「ただい……。」

そりゃそうか。

朝起きたら女体化していた旨を伝えた。
すると適応力の高い優秀な妹は色々取り計らってくれた。
感謝である。

女の子は下着の下にこの様なものを敷いていたのか。

やはり女の子は大変だ。

他人事の様になっているが自らも今は女の子になっている事に気付いた。

バイト先に辞める事を伝え通話を終わると良い匂いがして来た。
今日の夕食はグラタンのようだ。

本来は僕の登板だった色々大変だろうと今日の所は妹が変わって

くれたのだ。

感謝多謝。

とても整った可愛い顔なのは良いのだが口が小さく食べづらい。妹にそれを言ってみたら「可愛いからこっちみんな」と言われてしまった。

「妹も可愛いよ」と言ってみたがお前が言うなどの事だった。直ぐ気づかなかったが皮肉にしか聞こえなかったのだろう。どや。

新しいバイト先は近くのカフェにした。

うん、この女性給仕用の制服はとても恥ずかしい。スカートが短すぎる。

極めつけはこのキャラ作り。

「美味しくなれ きゅんきゅんきゅい」

…今のは僕が言ったセリフだ。

ケチャップでハートを描いたのち言った言葉。

僕は今恐らく顔が赤いだろう。

そこが受けているようだが。

因みに近くの席で手を口に当て、必死に笑いを堪える妹似の人物が居たがたっぷりとオムライスをケチャップで埋めてやった。

バイトも終わり、街を歩く。
途中チャラついた男達に絡まれたが「握り潰すぞ？」と和やかに微笑んだら引いてくれた。
気分が害されたので家に帰る事にしたのだがなんと今片思いしてる女の子、舞ちゃんが居た。
更に言うところまわっていた。
あいつ等に。

僕はまたしても近づき男達に微笑みかける。
聞き分けが良い男達は脱兎の如く逃げて行った。

舞ちゃんは少し頬を染め、ぽーとした顔で暫く僕を見つめて来た。
恥ずかしいので大丈夫かと話しかけてみる。
彼女は はっとした後感謝の言葉を述べた。
かっこ良く「当然の事をしたまです。」と言うが今は男じゃない事実。

舞ちゃんは更に顔を赤くして、小さな声でメールアドレスを教える
欲しいと言つて来た。

勿論僕は教えた。

今日は良い日。

後日お礼がしたいという舞ちゃんからのメールで舞ちゃんの家にご招待される事に。

夕食をご馳走してくれるそうだ。

腕によりをかけて作ってくれた事が良くわかる。

どれもこれもとても美味しい。

…それにしても舞ちゃんはさっきからもじもじして、息も熱っぽい
がどうしたのだろう。

心配になった僕は彼女に休むよう伝えたが断られた。

そろそろ帰る事を伝えると舞ちゃんは玄関先まで送りに来た。

そして玄関のドアノブに手をかけた時耳を舐められた。

不覚にもぞくぞくと快感が走った。

止めるよう言うが唇も塞がれ押し倒されて何も出来ない。

暫く口腔内を蹂躪されこれ以上は不味いと思ったときそれは一瞬だった。

女性の敏感な所を愛撫し、柔道のちよつとした技で半回転し組みし

き、急いで玄関から脱出する。
後ろから声がしたが無視する。

ついでに言うとても濡れていた。

家に着きさっきの事を妹には散々笑われたが無視し、火照っている
体を鎮める。

さっきの舞ちゃんのを思い出したらまた体が火照ってきた。
だが布団に潜り込みさっさと寝た。

次の日、体は元に戻っていた。
なんだかんだあのバイト先でのきゅんきゅんきゅんは割りと気に
ついていたんだけど。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9682y/>

とある男の悩み事

2011年11月29日01時56分発行